

2020

8

vol.533



Topics!
トピックス!

p1 新規就農者ご紹介 … 境田琢磨さん

p4 今さら聞けない〇〇コーナー〔原料原産地表示編〕

p12 各課紹介 第2弾! ~監査室・企画審査課~

境田 八束地区

琢魅 さん（22歳）



琢魅さんは檜山北高校を卒業後、酪農学園大学へ進学し肉用牛について専攻しました。在学中は肉牛研究会の会長も務め飼育方法等について学んだそうです。大学を令和2年3月に卒業し就農されました。本格的に農業を行ってみると、種子馬鈴薯の病株の見分け方、農薬について等、特に畑作関係では知らない事も多く、春先には大豆の播種作業を任せられ、慣れないトラクター作業で苦戦される等苦労も多くあるそうですが、「小さい頃から親の仕事を見ていて、大人になつたら力になりたいと思つていたので大変なことも多いけど毎日が充実している」と笑顔で語って頂きました。

趣味は音楽鑑賞の他に、中学でサッカー部と高校では陸上部、大学ではフットサルサークルに所属しており、町民フットサル大会にも出場されたりと活発に活動されています。

農業では、農業用機械の技術や知識を高めたり、肉用牛の飼育方法（特に外気温の変化への対処）等を勉強したいと考えているそうです。

最後に「まだまだ就農したての為、知らないことが分からぬことが多い、両親には迷惑をかけてしまうかも知れないが、早く仕事を覚えて力になり、自分の家の作業を覚えたら、今後の営農の為に色々と視野を広げていきたい」と語っていました。

【家族構成】

境田哲哉さん（父：58歳）
貴美子さん（母：57歳）
喜久子さん（祖母：82歳）

【経営面積】

水稻 2.3ha 大豆 9ha (内種子大豆 2.3ha)
種子馬鈴薯 4ha 甜菜 2ha 牧草 20ha
肉用牛 親 45頭 子 20頭 肥育牛 5頭

今月号は八束地区の
境田 琢魅 さんを紹介します。



理事会会報告

第7回理事会
(令和2年7月28日)

◆報告事項

121110 9、8、7、6、5、4、3、2、1、農業委員会総会報告について
P役員会報告について
C種子馬鈴薯第一期～第三期防疫検査の結果について
B農畜産物の販売状況及び生育状況について
A定期結果報告について
B定期結果報告について
の提出について
の処理について
の開催について
の取扱について
JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング（内部監査・貸出審査）報告」について
固定資産の取得計画の変更について
固定資産の取得について

議案第3号
議案第2号
議案第1号
議決事項
議案第1号
令和2年度情勢と農畜産物の栽培・管理等及び農産物
の取扱について
JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング（内部監査・貸出審査）報告」について
固定資産の取得計画の変更について
固定資産の取得について

【Aコープいまかね店からのお知らせ】

日頃より、Aコープいまかね店をご利用いただきまして誠にありがとうございます。
この度、

『葬儀並びに各種行事の注文と

返品に関するルール』

を改定致しました。詳細につきましては、ご注文頂いた際に都度ご説明申し上げます。

組合員の皆さんには、ご不便をお掛け致しますが、皆様に愛される店づくりに努めて参りますので、変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

(お問い合わせにつきましては

Aコープいまかね店まで 0137-82-0851)



ホクレン『GREEN WEB』で今金和牛をPR!!

ホクレンが運営するウェブサイト「GREEN WEB」
で春日井地区の佐藤弘一さんが紹介されました。

「今金町和牛生産改良組合」の組合長を務められ、更に「北海道和牛振興協議会」会長として活躍されている佐藤さんですが、どんな想いで、どんな風に黒毛和牛を育てられているか分かりやすく紹介されています。

また、同 WEB ページにて北海道産牛肉の消費拡大に向けた PR 動画にもご出演されていますので是非ご視聴ください。



ホクレン GREENWEBへのアクセス方法

ホームページアドレス
https://www.hokuren.or.jp/_greenweb_/

【佐藤さんの紹介ページはこちら！】

検索エンジンで「ホクレン GREENWEB」と検索するとトップページにアクセスできます。



←のQRコードをスマートフォンアプリで読み込むと直接アクセスできるので簡単です。

【北海道産牛肉消費拡大PR動画はこちら！】

北海道産牛肉消費拡大のPR動画にも佐藤さんが出演されています。



← PR動画へのQRコードです。

防ごう農作業事故

農作業事故と聞くと皆様は何を思われるでしょうか？「自分なら大丈夫」、「そんなに危ないことはしない」と考えられる方も多いと思います。ここ数年、全国的に農作業事故は減少傾向にありますが、北海道内での農業用機械による死亡事故は令和元年度では**17件**、令和2年度すでに**4件**発生しています。農作業事故はなぜ起こるのでしょうか？

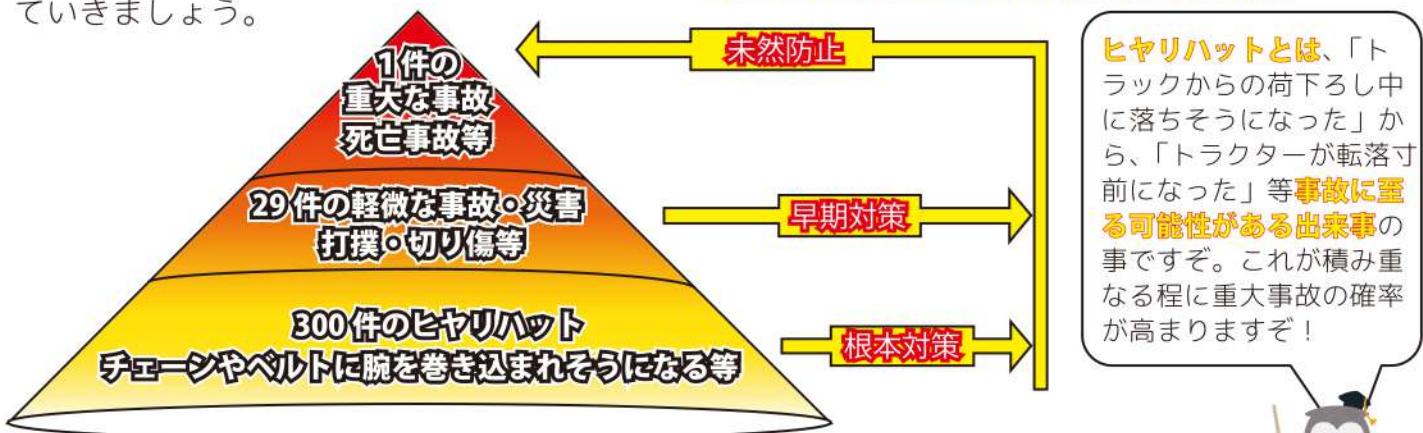
令和2年度 北海道に置ける農作業事故発生状況（死亡）※令和2年6月末現在

農機名	事故内容
フォークリフト	ハウス付近にて鋼管トンネルパイプ等の片づけ中にフォークリフトと衝突し、タイヤで腰や腹を踏まれる。
トラクター	圃場へ移動中に8m下の沢に転落
トラクター	父親が運転していたトラクター前部の作業用アームより転落し引かれる
トラクター	山林で枝の伐採作業中に傾斜地より転落しトラクターと斜面の間に挟まれる

事故の大半がトラクター等による事故で特に転倒、転落が多く見られます

農作業事故の発生要因

農作業事故は単体で起ころうではなく、事故にならなかった事案が積み重なって重大事故に繋がります。重大事故を防ぐためにはヒヤリハットの段階で対策をとることが重要です。皆様の作業体系の中でヒヤリとすることがあったら、**家族や構成員の中でも情報共有し、対策を考えていきましょう。**



※今年度北海道における農作業中の死亡事故が4件発生していますが、死亡事故に行き着くまでに1,200件近いヒヤリハットがあったことになります。



これから収穫作業が本格化する中で事故は、収穫時期を逃すことによる減収等経営に与えるリスクは計り知れません。連日の農作業による疲労が溜まっているとは思いますが、**自分と家族や構成員等を守るためにも、農機の点検や、作業工程の確認等を行い、無理なく万全の体制で収穫期を迎いましょう。**

何かあったときはすぐ連絡を！

どれだけ気を付けても事故がいつ自分の身に降りかかるかはわかりません。もし事故にあったときにすぐに家族等外部へ連絡することが大事です。携帯電話が事故の拍子で体から離れないように対策をとることをお勧めします。

今さら聞けない100コナー

原料原産地表示編

原料原産地表示ってなに?

平成27年に食品表示法の食品表示基準が改正され、この改正によってその食品は原料に「何」を使っていて「どこ」で生産されたかを表示する事が義務付けられました。これが原料原産地表示制度です。

ただし、原料が複数ある場合食品の中で一番多く使用されているもののみ表示が義務付けられています。下にウインナーソーセージに関する3つの表示例を挙げていますが、それぞれに特徴があります。

【例その1】

名称：ウインナーソーセージ

原材料名：豚肉(アメリカ産)、

豚脂肪、食塩…etc

内容量：○○○g

⋮

原産地表示が**1国の場合**、その産地の原料しか使われていないことを表します。

【例その2】

名称：ウインナーソーセージ

原材料名：豚肉(アメリカ産、国産)、

豚脂肪、食塩…etc

内容量：○○○g

⋮

原産地が2か国以上ある場合、**先に記載のある国の食材が多く**使われています。
上記の場合、アメリカ産が日本産より多い割合で使用されていることを表します。

【例その3】

名称：ウインナーソーセージ

原材料名：豚肉(アメリカ産又は国産)、

豚脂肪、食塩…etc

内容量：○○○g

⋮

原産地表示「又は」の表記がある場合、原料産地は**記載のある国のどちらか**となります。
上記の場合、アメリカ産と国産の両方もしくはどちらかを使用しており、過去の実績ではアメリカ産が多くなっていることを表します。

「国産」と「国内製造」の違いってなに? 乾麺(そば)を例にすると以下の通りです。

名称：乾麺 そば

原材料名：そば粉(国内製造)

小麦粉

内容量：○○○g

⋮

国内で加工を行った場合、原産地表示の必要はありません。

上記の場合、そば粉の原料はどの国かはわかりませんが国内で製粉したことだけがわかります。

名称：乾麺 そば

原材料名：そば粉(そば：北海道産)

小麦粉

内容量：○○○g

⋮

加工を行ったものでも、加工原料の表示はできます。

上記の場合や、国産である場合等は加工原料の産地表示を行う場合もあります。



加工原料を使用する食品(パン・まんじゅう等)の場合はすべて、加工国名もしくは加工原料の産地表示が義務付けられています。

国産原料のみを選びたい方は国内製造の表記は避けることをオススメしますぞ!!

原料原産地表示制度は令和4年3月末まで猶予期間となっています。表示方法が複雑ではありますが、この法改正で今まで以上に食品表示が透明化されました。是非とも今金の美味しい農産物、そして北海道や国産の農産物を食べて頂けると嬉しいです。JA今金町としても安全安心の農産物を引き続き皆様へお届けして参ります!

持続可能なJA事業運営を考える ~後編~



【出席者】※役職は令和2年1月現在のものです。

小林 国之
北海道大学大学院農学研究院准教授

柴田 倫宏
JA北海道中央会専務理事

宮本 英靖
JAピンネ代表理事組合長

佐藤 正昭
JAこしみず代表理事組合長

出典：『北海協同組合通信 2020新春特集号』
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

労働力確保や施設整備で支援

大変なのは生産力をきち
んと上げることだが、うちも農家
戸数の減少に伴って1戸当たりの
耕作面積が増えている。そうなる
と、手間がかかる野菜などが減り、
だんだん畑作3品を中心の経営に戻
つてしまった。これでは輪
作の面でもよくない。一番の問題
である労働力不足に対応するため、
3年前に農業支援事業を立ち上
げた。今は外国人技能実習生と日
本人合わせて15人おり、ニーズに
応じて労働力の不足している農家
などが活用している。

ふたつめは耕畜連携で、うちは
畜産が販売高の2割ほどしかない
が、条件が悪い農地を吸収しても
らったり、安定的に堆肥を調達す
る上でも、畜産振興は地域にとつ
て重要な課題だ。そこを重点的に
やろうということで、酪農で数千
ヘクタール規模の牛舎をつくる構想を立てからもう5年もたつ。畑作地帯

だからなかなか場所がない。その
を農協が借り上げ、そこからスター
トしようとを考えている。まずは生
産力を維持することと、地域から
人を減らさないこと。そのためには
どんな仕組みをつくるか。黙つて
いては衰退の道しかないが、いろ
いろなことをやっていれば自然と
人は集まつてくるものだ。

また、畑作関係では新たな輪作
体系の確立と併せて「畑作対策基
金」の創設を検討している。

宮本 われわれのところは農地

の8割が水田であり、中心となる
米の生産性を高め、それをいかに
集荷して有利販売していくかが農

協の使命と考えている。1戸当たり
の経営面積は平均16haと、離農
に伴つてこの10年間で2倍になつ
てている。その中で米の施設につい
ては、行政の支援も受けながら新
十津川町と浦臼町に1カ所ずつ、
1万tの米ばら貯蔵施設があるが、
3つめの1万tクラスを半乾ばら
施設で整備したいという構想を
持っている。現状の施設規模では
だんだん足りなくなつてきており、
次の策を打たなければ組合員の規
模拡大に対応できない。遊休農地
はなく、これからも1戸当たりの
面積は増えていくだろう。農協の

だからなかなか場所がない。その
を農協が借り上げ、そこからスター
トしようとを考えている。まずは生
産力を維持することと、地域から
人を減らさないこと。そのためには
どんな仕組みをつくるか。黙つて
いては衰退の道しかないが、いろ
いろなことをやっていれば自然と
人は集まつてくるものだ。

また、地方の農協は、行政や地
域の皆さんと一体の組織、社会の
ライフライン的な組織と位置付け
られている。そのため、町の政策
と共に事業展開をしたり、逆に
われわれの取り組みに行政に入つ
ていただくなど、そこは相互に参
画していかなければならないと思
つている。今も要請があれば、
農協事業とはまったく関係がなく
ても、組織体をつくつて行政と一
緒にやっているし、そうすること
によって、財政面を含め、農協の
事業に対して行政から支援をいた
だける部分もある。

使命を果たす上でまずは施設が必
要だと考えている。
もうひとつは、国のスマート農
業実証プロジェクトの個人経営型
に新十津川町の個人の農園が採用
され、無人化・省力化に向けた機
械導入に取り組んでいる。すでに
ドローンや田植え機については、
行政と連携して助成金対応の中で
導入を進めており、こうしたスマ
ート農業にも地域を挙げて取り組ん
でいきたい。これらハード・ソフ
トの両面から、地域の作付面積を
維持し、生産力を高めていくこと
により、それが総合事業の中で、
金融や其済、経済事業にもつながつ
ていくという考えだ。

また、地方の農協は、行政や地
域の皆さんと一体の組織、社会の
ライフライン的な組織と位置付け
られている。そのため、町の政策
と共に事業展開をしたり、逆に
われわれの取り組みに行政に入つ
ていただくなど、そこは相互に参
画していかなければならないと思
つている。今も要請があれば、
農協事業とはまったく関係がなく
ても、組織体をつくつて行政と一
緒にやっているし、そうすること
によって、財政面を含め、農協の
事業に対して行政から支援をいた
だける部分もある。

生産性を上げるために必要な経費

小林

農協としてやらなければいけないことが増える一方で、経営の効率化も進めなければならない。これまで北海道の農協は、例え生活店舗を外部化したり、人件費などの事業管理費を削減しながら、何とか経営の合理化を進めてきたと思うが、今後を考えると事業の外出しもある程度終わり、人件費の削減も限界にきている。

加えて国からは「働き方改革」が求められており、これからどう効率を上げていくかというところも課題。実際問題としてこれ以上人を減らすわけにはいかないだろ。

宮本

逆に増やさざるを得ないのが現状で、すでに米の調製施設などは、働き方改革に対応するため、2班から3班体制に変更しており、青年部の皆さんに手伝つてもらつて何とか人手を確保している状況だ。

加えて事業管理費も上がる。特に大きいのは管理部門のチエック機能で、すべてにおいてダブルチエックが必要、ひとりで対応してはいけない、行動するときも2～3人で動くようとの監査指導が入つており、これによる人件費の上昇が大きい。

佐藤

事業管理費は間違いなく上がる。下がることはないだろう。

特に、農作業支援事業などをやると農協全体で抱えるコストは上がっていく。加えて一番困つてることは、地方にはなかなか良い人材が集まりにくくなっていること。大学と連携してインターンシップをやりながら人材確保に取り組んでいるが、そこが難しくなっている。女性職員もかつては8割が準職員だったが、もう正職員でなければ定着は望めない。社会環境の変化に合わせて、資格試験なども活用しながら、段階的に正職員にしていかなければなりません。生産性を上げるために必要な経費だとすることを、組合員の皆さんと共にしなければできる話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

宮本

うちも準職で採用しても、初級の資格を取れば3年後には正職員の道を約束している。皆さん試験に真剣に取り組んでくれておられ、正職員になつた後は管理部門以外も経験させるよう人事も合わせて対応している。

小林

事業管理費の上昇は避けられない状況だが、こしみずの農作業支援事業などはまさに農家をサポートする素晴らしい取り組みだ。今後、部門としての収益性についてはどう考えているのか。

佐藤

そこが問題だ。派遣先の農家個々からはそれぞれいたくが、支援事業はこれから先、農協

の基幹的な事業になると思う。そこは将来的に営農指導の対価をどうするのかということを含めて、考えていく必要がある。同時に、町の基幹産業を育てるためには行政の支援もいただきたい。酪農の法人化の話も、町と農協が出資する形で、しっかりと経営管理しながら進めていきたいと考えている。そこでかかるコストについても内閣でしつかり議論していかなければならぬ。生産性を上げるために必要な経費だとすることを、組合員の皆さんと共にしなければできる話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

佐藤

うちも賦課金はもらっているが、施設を建てるときに出資金はもらわずにやつてきた。農協経営の中でしつかり内部留保し、自分たちの努力でやるという方針だつたから。ただし、これからは

そうは言つていられない時期があると思う。これから考えられるのは、手数料そのものを上げるのは無理だと思うが、コストとして掛かるものはいただくという形だろう。

小林

農協の仕事は農産物の販売など目に見える事業だけでなく、地域に関わるさまざまなことがある。それが経費でいうと事業管理費として出てくるわけだが、今後はどこかの段階で、手数料や賦課金のあり方を含め、農協の営農指導事業とは何かという話を整理して、個々の農協でどこまでやるのか、それをやるためにどれだけコストがかかるのか、ひとつひとつ議論していくことも必要になつてくるだろう。

一方、もらうばかりではなく、うちは事業分量配当で毎年約1億円を組合員に戻している。30戸強だから1戸平均30万円ほどだが、それを経営主の退職金として積んでいる。10年たてば300万円、20年たてば600万円になる。農家には退職金制度がないので、農家の経営管理のひとつとして、

そういう仕組みも考えておかなければ

相続や贈与税など総合的な税対策となるとあまり準備していない人も多く、農協がサポートしていかなければ。農家の経営を守るためににはそういう仕組みも必要だし、農協の経営にとつても重要な立場でいる。

柴田

今回の事業基盤に関する

検討に関しては、農水省も全国の農協に対し、當農指導を含めた経済事業を黒字化するよう指導しているが、最近は赤字だからすべて

だめだというのではなく、農協が総合事業をやっていく中で、全体としてコントロールできているのであれば問題ないのではないか、

という言い方に変わってきた。経済事業は黒字にしてほしいという本来の思いはありつつも、例えば都市型農協などであれば、黒字までいかなくとも賦課金をもらうことで「きちんとコントロールできている」と言えるのなら、外からいろいろ言う必要はないのでは

ないかと。当然、コントロールできていないところに対しても厳しらいろいろ言う必要はないのでは

流れが変わってきたように感じる。われわれとしてもそれに沿って取り組んでいきたい。

その中で金融事業をめぐる環境

が厳しいというのは共通した課題であり、この先も持続可能な経営基盤を確立する上で、それぞれの農協が自分たちの強みや弱みを考えて取り組んでいくということだ

と思う。奨励金など環境の変化に

応じて各農協で毎年シミュレーションを繰り返しながら、中央会もそれを共有し、収支の改善見通しや安定的な収支を確保するため

にはどうあるべきかなど、その農協に合わせたお手伝いをしてきたことだと考えている。

ただし、この間、農協改革などを通じてさまざまなことがあつたが、農協に対する社会の意識も変わりつつあるのではないか。江藤農水大臣の就任あいさつでも、これまで全国で災害が毎年ある中で、地域のJAのあり方については、

本来の経済事業だけでなく、地域への貢献などをきちんと評価しなければだめだと発言していたし、併せて家族経営の位置づけをどうするのかという問題提起もしている。

佐藤

やるほうは大変だが、ラジオを聞いて実際に人が来てくれれば達成感があり、また頑張ろうとなる。その積み重ねが大事だと

いた。時の大臣がああいう発言をしたのは重要なこと。潮目が変わってきたのではないかと感じている。

農作業支援事業に関しても、町

内で廃校になつた高校の跡地を活用して拠点施設をつくろうと今動

いているが、その構想を上げてきているが、その構想を上げてき

たのは職員。かなり大きな施設だ

農水省も農協改革の中でもやつてきたが、中身をよく調べて

てみると、逆に協同組合が地域で

どういうことをやつていたのか、見えてきたのではないか。私自身、自分たちが進んでいる道は間違いない、正しかったんだと改めて感じている。

小林

これからは「正しかった」

ということをもつと声に出し、内

外にわかりやすく伝えていくこと

が重要だろう。全国の農協でも組合員との対話として職員訪問など

を実施しているところがあるが、

ピンネの営農涉外課やこしみずの農作業支援事業などの取り組みは全国でも驚かれる事例だと思う。

中央会と連携し、北海道からもぜひいろいろな形で発信していただきたい。小清水では農作業支援事業に人を呼ぶためラジオ番組などの媒体もどんどん活用して発信している。

柴田

職員の思いがそのような

形で積み上がつてくると、今度は理事者も組合員の皆さんに理解してもらおうと頑張る。そうしたひとつひとつの積み上げが、協同組合運動の原点という気がする。

小林

持続可能なJAのあり方

ということで私が感じているのは、

今は北海道に108JAがあり、

これから少し合併が進む可能性はあると思うが、例えば事業間連携など、JA同士がもつと有機的に結び付くことによつて、コスト面では事業管理費を削減したり、販売面ではより機敏な対応を可能にするといったことも求められていくのではないか。

佐藤

オホーツク管内は14農協

あり、うちを含めて合併はそれほ

これは大変だと思ったが、一緒になつてやつていくと形ができる

る。やらなければ何も生まれないが、やることによって何かが生まれる。衰退よりは何かすること。それを職員が自分たちで考えて提案してきたところに心を打たれた。総代会で反対されればできないが、農協はそういう組織であり、組合員が受け止めることも大事だと思

ど進んでいないが、これからは管内14農協が連携し、共通の課題を持ち寄りながら、将来ビジョンをつくっていくことが大事だと思う。

その中で事業間連携に関して言えば、うちにはオホーツク農協連がある。小さな農協は人材確保が大変なので、各農協ではできないような事業の中身を精査し、それに対応できる人材をオホーツク農協連に集め、いつでも相談できるような組織にしていきたいと考えている。

全道的な課題には中央会が対応してくれるが、管内特有の悩みというのもある。農協の駆け込み寺ではないが、オホーツク農協連を核にして、単体の農協事業のことだけではなく、組織全体で地域を守り、共有のオホーツクブランドを大切に育てていくという、そうした相互的な取り組みを進めることによって、それを見ている組合員にも、協同組合やJAグループの大切さが自然と伝わっていくのではないかと考えている。

宮本

うちも事業連携に向けた新たな取り組みとして、中空知地域のJAたきかわ、JA新すながわ、ピンネの3農協の間で選果施設の共同利用を検討してきた。青

持っているが、水田の規模拡大に伴い、どこの農協も野菜の生産規模が小さくなつてきていている。そのため3農協で事業連携を組み、共通する品目の選果施設を共有化できなかということを5年前に提案し、最初に花きの集荷・選果施設で実現することができた。JA新すながわの花をうちの施設で選別し、産地もしつかり明記しながら出荷している。また、たまねぎはJA新すながわが広域の事業連携で中心的な役割を担つており、この部分でも何とか中空知3農協で事業連携が組めないかという提案をしている。このほか、アスパラ、いんげんなども、それぞれの農協で小規模な施設を持つているが、地域で連携が取れないかと提案している。時間はかかるかもしれないが、規模が縮小して施設を維持できなくなる前に、何とか2つ、3つの事業連携を形にしていきたいと思っている。組合員のためにも、ぜひ進めていきたい。

佐藤

施設をまとめるのは大変だ。オホーツクでもビーンズファクトリーをつくったが、あれは実現するまでに5年ぐらいかかった。管内でのん粉工場の再編も同じでようやくひとつ区切りがつくが、これは10年かかった。一度まとまれば行政などの支援も得られるが、

やはりわが町、わが農協という思いがあるから時間がかかる。しかし、いよいよひどくなつてからでは遅い。先の話をしていかなければ。

柴田

厳しくならないとまとまつていかないというのはまつたくそのとおりで、ピンチをチャンスとして捉えないと、事業間連携などの話は出てこないと思う。例えば農協合併についても、今までのようにどんどん進めればいいとは思わないし、皆さんに考えた結果が単独での総合事業体だとすれば、その体制を維持していくためにはできることは何か、各農協や地域で考える土壤が出来つつあると感じる。その中には、いろいろな事業間連携もあれば、施設の効率利用もある。それをどの範囲でやるのか。地域や事業内容によつて、オホーツクのような地区単位でやるところもあれば、中空知のよう

運営のあり方ということで出てきているのは、金融店舗やATMの集約化などを通じて浮いた人員を支援事業を含め、全国の動きを先取りした取り組みが道内で動いていると言える。北海道からもこうした事例を積み上げ、全国に発信していく必要があるだろう。

小林

これまで組織基盤の強化については、最初に合併目標を掲げ、そこに向かって北海道もやつてきたが、今は各JAの考え方を最優先し、単独でいくのであれば支援していましょうというスタンスに変わっている。そこをこれからも大事にしながら、農協のあり方をもう少し広い視野から柔軟に考えていくければ、JAという的是に十分に持続可能な存在であり、再評価されてきている部分もある。これまでやつてきたことに自信を持つて取り組みつつ、まずは組合員や地域の人たちに理解してもらいたい。今日はありがとうございます。

（おわり）

いまかね TOPICS

種子馬鈴薯防疫検査 全筆合格しました！



種子馬鈴薯防疫検査が7月1日の第一期を皮切りに、7月8日の第二期、7月15日の第三期と行われ全筆合格しました。

「今金男しゃく」のブランドを維持するため健全な種子生産が不可欠です。今後もアブラムシ自主検査を実施する等、収穫まで気を緩めずに生産管理・環境整備が続けられます。

令和元年度農業電化推進コンクールにおいて受賞いたしました。



7月2日、一般社団法人日本農業電化協会主催の令和元年度農業電化コンクールにおいてJA今金町馬鈴薯保管倉庫の照明対策が表彰されました。受賞にあたっては、専用の特殊なLED照明を用い馬鈴薯の綠化防止と作業所内の照度を両立した事がポイントとして挙げられました。

今後とも組合員と一丸となり、ブランドの維持向上、有利販売に努めて参ります。

早出し馬鈴薯の坪堀 目揃え会を行いました



坪堀した馬鈴薯を規格毎に分ける役員・班長

7月20日今金町早出し馬鈴薯振興会が坪堀を行いました。坪堀の結果、収量は例年と比べ、ますますといつたところで、美味しいさの指標となるライマン価については同会が厳しい基準を定めていますが、バラつきはあるものの基準以上の結果となりました。同日の夜に目揃え会も実施され、消費者へ美味しい今金男しゃくを届けるために規格等出荷基準について話し合いが行われました。

農業新聞普及活動について 表彰状が授与されました



6月22日、株式会社日本農業新聞よりJA今金町へ、普及活動への功績に対して表彰状が授与されました。

農業新聞では昨今の農業情勢等、農業経営にあたり必要な情報が多数掲載されております。まだ購読されていない組合員の皆様におかれまして是非農業新聞の購読をしていただき役立てていただければと思います。

お申し込みは管理部管理課迄お願いいたします。

いまがね TOPICS

広域三部会（大根・人参・ブロッコリー）目揃え会を実施



広域大根部会
広域人参部会 合同目揃え会



広域大根部会現地視察



広域ブロッコリー部会目揃え会

单価面では、各品目とも新型コロナウィルスの影響により、需要低下に伴う価格の低迷が心配されました。家庭消費の拡大等の好要因に恵まれ好調なスタートを切りました。

目揃え会では、両部会ともに出荷規格についての確認を行いました。また、広域人参部会では現在発生している病害について部会担当から報告があり、防除について入念に確認を行いました。

広域大根部会では目揃え会前に現地視察を行い、品種試験圃の視察を行いました。例年発生している病害への耐性を測る試験も併せて行っており、結果が注目されています。

7月30日には広域大根部会・広域人参部会合同目揃え会が実施されました。

また、今年度の天候条件に合った栽培技術等について、檜山農業改良普及センターや有限会社河田商会の種子販売の担当者より情報提供を受けました。

7月17日に広域ブロッコリー部会が目揃え会を実施し、出荷規格や収穫から出荷までスピードに行い鮮度保持に努める等、注意事項の確認が行われました。

また、今年度の天候条件に合った栽培技術等について、檜山農業改良普及センターや有限会社河田商会の種子販売の担当者より情報提供を受けました。

今金町ミニトマト振興会 目揃え会を実施



現在、市場から高評価を頂いている当町のミニトマトですが、他産地との競争が激化している中、これから継続的な生産販売に向け品質の維持及び均一化を図るために熱心に意見が交わされていました。また、目揃え会終了後は役員を中心に各生産者の選果場等を見回り、GAP点検を行いました。

今金町議会総務産業常任委員会 現地調査



7月21日、今金町議会総務産業常任委員の皆様が、今金町農協整備工場のRTK基地局の現地調査を行いました。この基地局は、今金町が掲げるスマート農業の推進の起爆剤として、町の尽力により設置されました。今後、有効活用が大いに期待されます。

現在、スマート農業に興味がありRTK基地局の使用を検討されている方はまずは農業経営課にご相談ください。

もぎたて市&いまかね減塩大作戦コラボ企画

ベジタブルのちょこっといい話

8月は『トマト』に、いまかね減塩大作戦シールをはります。前回の『なす』に引き続き、トマトの魅力を満載で「ベジタブルのちょこっといい話」をお届けいたします！

トマトのプロフィール



【分類】ナス科ナス属

【原産地】南アメリカのアンデス山脈高原地帯

【おいしいカレンダー】6月~8月ころ

【主な栄養成分】リコピン・ビタミンCなど

◆生産量トップ3◆

1位：熊本県



2位：北海道



3位：愛知県



令和元年産調べ



◆トマトのチカラ◆

皮の赤い色は、カロテノイドという色素成分の一種、『リコピン』によるものです。また、他の野菜と同様に『ビタミンC』を多く含んでいます。リコピンとビタミンCはともに、強い抗酸化作用があります。体に有害な活性酸素を抑える働きがあり、**老化やガンの予防に期待**できます！

♪レシピ『トマトとズッキーニの炒め物』♪

【材料（4人分）】

- ☆トマト 2個
- ☆ズッキーニ 2本
- ☆玉ねぎ 1個
- ☆ベーコン 160g
- ☆にんにく 1片
- ☆顆粒コンソメ 小さじ1
- ☆塩こしょう 少々
- ☆オリーブオイル 大さじ1
- ☆粉バジル 適量



【作り方】

① 下ごしらえ

トマト：ヘタをとり、12等分のくし切り。
ズッキーニ：5mm幅の輪切り。

玉ねぎ：みじん切り。

ベーコン：1cm幅に切る。

にんにく：薄切り。

② オリーブオイルをひいたフライパンを熱し、にんにくを加え香りがたったところに、ベーコン、玉ねぎ、ズッキーニの順に炒め、火が通ったところにコンソメと塩こしょうで味付けをする。

③ ②にトマトを加え、トマトが温またら器に盛り付けてバジルをふりかけたら完成です。

(ポイント：トマトを炒めることでリコピンの吸収率が良くなります！)

«1人あたり 245kcal、たんぱく質 7.9g、脂質 19.0g、炭水化物 12.8g、食物繊維 3.2g、塩分 1.1g»

今金町では、食育の取組みの一環で『毎月19日は地場産物を食べよう！』と、活動していますぞ！

もぎたて市では、今金町でとれた新鮮な野菜を皆様へ提供しており、19日に地場産物の野菜を食べて欲しいという思いもありますぞ！



◆保存方法◆

へたの付け根まで真っ赤な熟したトマトは、ビニール袋に入れて野菜室で保存します。まだ緑の部分が残っているトマトは、常温に置いておくことで追熟され、リコピンの量が増えて赤くなるので、待ちましょう。

へたをくり抜いて丸ごと冷凍保存もできます。冷凍すれば簡単に皮がむけ、はちみつなどをかけるだけで簡単デザートができます！

◆調理のコツ◆



リコピンの吸収率は、生よりもペーストにしたり加熱調理にするなど、加工するほうが高くなります。加熱によりリコピンが減ることはほとんどありません。また、油に溶けやすい性質があり、油を使った調理法によってさらに吸収がよくなります！

食品成分表（可食部 100gあたり）	
エネルギー	19kcal
水分	94.0g
たんぱく質	0.7g
炭水化物	4.7g
無機質	
カリウム	210mg
カルシウム	7mg
マグネシウム	9mg
リン	26mg
鉄	0.2mg
マンガン	0.08mg
ビタミンB1	0.05mg
B2	0.02mg
葉酸	22μg
C	5mg
食物繊維	1.0g

～今金町保健福祉課より寄稿頂きました～

監査室・企画審査課

J A 今金町はこれからも組合員の皆様と共に

今月号は「監査室」と「企画審査課」をご紹介します。



本年5月より専門職員を配置して監査室が新たな体制により設置されました。普段は組合員皆様とは直接接する機会はありませんが普段の業務について紹介いたします。

1. 年間計画の作成
1年間どのような監査をするのか、又どの点に重点を置くのか検討し1年分の監査日程表を作成します。特に全国的な不正の発生状況や内容を分析しその傾向をみて特に不正が起きやすいポイントを中心に計画します
2. 監査を実施
監査計画に基づき事前に用意して頂く物を準備して頂き、業務マニュアルや規程に沿った業務を行っているのか見ます。問題点が発見された場合には担当者と面談したり、部門責任者と協議を行い改善点がないか検討し上席者に報告します。
3. 評価、報告
監査が終了すると監査で得た書類や調査内容を分析し、業務の改善点をまとめ組合長へ報告書を提出します。
4. その他
前述した監査の他に抜き打ち監査を行っております。事前通知は行わず現場に直接行き、現金や重要書類等を監査します。
5. まとめ
外部監査との違いは財務状況や経営内容など対外的な証明がありません。外部監査は対外的な開示項目に従いその内容が法律上問題なく有効に開示され、経理の妥当性を報告することです。
6. 今後について
残念ながら北海道においても不祥事案件が毎年発生しております。近年の傾向としては長年同じ業務を行い、その人に任せっぱなしにした事による事故や電算化に伴い、端末操作による横領等があります。これらを未然に防ぐため緊張感を持って業務にあたって参ります。

【管理部長兼監査室長 荒川英也】

管理部企画審査課は、行政から求められた貸出審査体制の見直し（貸出担当部署と審査部署の分離の必要性）から、機構改革により本年5月1日より新たに設立された課です。この課の役割は大きく分けて二つあり、一つは「審査」業務です。今金町農協がJ Aバンクとして組合員皆様に融資させていただく資金の貸付けにあたり、窓口である貯金融資課においては借入申込や一次審査を行っていますが、当課ではその事業計画や返済計画の妥当性、また債権保全状況はどうなっているか等、独立分離した審査部門として厳正な基準に基づいた二次審査を行い、信用事業資産の健全性確保に努めています。独立した部門としての機能を發揮し今後とも的確な融資審査及び内部牽制機能の強化を図り、より安心してご利用いただけるよう、地域に根ざし事業を推進して参ります。

そして、もう一つの役割は「企画」業務になります。企画業務の内容は多岐にわたりますが、その最たるものは営農指導事業になります。この事業は、農協事業の原点とも言える最も重要なもので「営農・技術改善指導」「生活改善事業」「教育情報活動」「組織農政活動」の四つ柱からなり、この費用の一部は組合員皆さんからの賦課金で賄われる他は全て、農協事業の協同の成果である収益によって賄われています。営農指導事業は直接的には経済的利益をもたらしませんが、協同の利益を実現していくうえで極めて重要な役割を果たしています。

当課は、皆さんに身近なところではJA広報誌の発行や、青年部・女性部の事務局、行政と連携した健康増進への取り組みなど、農協と組合員皆さんの結び付きを強め、次代を担う人材を育成する事を仕事としています。

現在、農協事業は時代の大きな変化の流れの中で岐路に立たされています。こうした言い回しは使い古された感がありますが、真の意味で農協が原点を見直し立ち戻る時に来ています。前々号の広報誌6月号では、農協特集として「今金町農協の主人公とは誰でしょう?」という問い合わせをしていただきました。また、7~8月号では持続可能な農協事業についてJA関係者の座談会を掲載しています。経営体(組合員)を育て、農業後継者を育て、職員を育てる。この事が農協の原点であり持続可能性と言えます。この目的を果たすため、他部門と共有連携しながら仕事をして参ります。「わたしたちの今金町農協」は皆が主人公です。

【企画審査課長 工藤耕治】

車のエアコンフィルターいつ変えましたか?

整備工場 より

カーエアコン用クリーンフィルター キャンペーン 開催中!!

3,000円(税込み)~

交換をお考えの方は JA 今金町整備工場迄お問い合わせください (TEL : 82-0411)

ホクレンSSでサマーフェア 開催中!

店頭給油の方

※~9月22日(火)迄

金・土・日は ポイント4倍

税込み2,000円以上店頭給油の方

抽選で

最大5000ポイント

当たる!

店頭給油で40㍑分のレシートでご応募頂いた方

抽選で200名様に

農産物(または)
畜産物詰め合わせ

プレゼント!

ご質問は燃料課迄お問い合わせください (TEL : 82-0241)